7

松本順の医学関連資料

寺畑　喜朔
金沢医科大学

演者が所持する松本　順陸軍軍医頭の資料2点について紹介報告する．

1. 漢詩書軸（絹本，131×151 cm）

演者が約25年前明治期の能登の医界について調査検索していたが，その際金沢医学館，大阪医学校で医学修業した羽咋一宮の宮崎謙吉の存在が判明し，その末裔を探し接することが出来，度々訪ね遺品の中に松本　順，長与専齋両先生の書軸があり，その貴重なことを指摘しておいたところ，後日末裔の方から連絡があり，将来散逸する可能性が高いので演者に進呈するということで，管理保存を約して受領した．その後，書軸の制作年代につき調査を進めると，石川県の稀覯誌「明正」3巻，5号（大正12年，6月）に「石川県下洋医の元老，宮崎謙吉」の掲載記事に「明治十六年七月松本陸軍軍医総監を羽咋町に招き臨時医師会を開き講演会を開きて講演を得て医事の進歩を計り，或は二十四年九月日本私立衛生会副会長長与専齋先生を羽咋に招き臨時医師会において，衛生思想を鼓吹した」とあるので松本の書軸は明治16年秋頃の揮毫と判断してよい．漢詩内容は「天賜清間懸賜健託身事少戴高砂一生宰了歳履三十年来不負花　賀二秋日為宮崎仁兄　蘭畴」とある．書体は極めて流暢で見事な作品と評価出来る．

2. 松本，石黒両陸軍軍医総監銅像絵葉書

銅像制作について，軍医団雑誌（347号，昭和17年，4月）石黒子爵閣下追悼号で陸軍軍医中将佐藤恒丸は「明治四十二年に石黒総監の陸軍衛生部に対する功労を表彰する為に，壽像を建立する議が部内に起こった時，総監は固辞した．理由は（先輩松本男爵を後にして，まず自分の像を建てることは穏当でない）で，種々談合の結果，松本男爵の胸像と石黒総監の立像を同時に作ることになり，漸く総監の同意を得た」と記述している．建設募金は関係団体から6,886円醵金（うち銅像建設費6,500円），同43年7月武石弘三郎に制作委嘱し同45年3月鋳造完成し陸軍軍医学校内北側校庭に建立された．軍医関係代表70余名集合し，同年3月7日盛大に除幕式が挙行された．建設委員長は森 林太郎軍医総監である．医海時報（924号，925号，明治45年3月9日，16日）に写真を掲げ，除幕式の模様を詳報している．また，東京医事新雑誌，中外医事新報告にも同様記事が簡記されている．この壽像建立を記念して一枚の絵葉書が制作され関係者に頒布された（制作費65円）．絵葉書の宛名面下段に石黒の簡単な謝辞（御厚情に依里銅像建設相成候間謹て御禮申進候　敬具　明治四十五年三月　男爵石黒忠悳）がある．

この松本・石黒両陸軍軍医総監の銅像絵葉書は，かねて収集してきた軍事関係絵葉書の中では歴史的出発点となる貴重な一点として評価し，保存している．現代の日本の防衛関係の諸所に度々その存否を紹介確認したが，杳として判然としない．軍関係の重要な銅像であるから，敗戦前の全国的金属回収令から免除された可能性を考えたが，現在結論を得ていない．一般に一基の台座に二人の銅像の設置は演者の知る限りでは，この松本・石黒像以外知らない．

一枚の絵葉書をめぐり，その制作の動機，人物，建築物等々につき，解明の糸口を検索する所作は，時には意外な歴史的解明の発展に結び付き，これがまた醍醐味ででもある．